

製品名: SYP ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab18520**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	38kDa

抗原情報

遺伝子名	SYP
別名	SYP; Synaptophysin; Major synaptic vesicle protein p38
遺伝子 ID	6855.0
SwissProt ID	P08247
免疫原	抗血清はヒトシナプトフィジン由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 101-150

背景

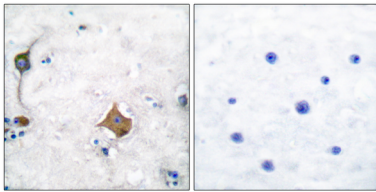
この遺伝子は、脳および内分泌細胞の小型シナプス小胞の膜貫通タンパク質をコードする。このタンパク質はコレステロールにも結

合し、小胞関連膜タンパク質 2 (シナプトプレビン) を細胞内区画に誘導すると考えられている。この遺伝子の変異は、X連鎖性精神遅滞 (XLMR) と関連している。[RefSeq 提供、2011 年 8 月],ドメイン: カルシウム結合活性は、タンパク質の細胞質側末端に局在すると考えられている。機能: 他の膜成分の組織化や小胞の細胞膜への誘導といった構造機能に関与している可能性がある。オンライン情報: シナプトフィジンエントリ,PTM: ユビキチン化; SIAH1 または SIAH2 によって媒介され、その後プロテアソームによる分解につながる。類似性:シナプトフィジン/シナプトプレビンファミリーに属します。類似性:1 つの MARVEL ドメインを含みます。サブユニット:ホモヘキサマーまたはホモテトラマー。組織特異性:シナプス前小胞だけでなく、神経細胞と上皮細胞の両方の表現型のさまざまな神経内分泌細胞の小胞を含む、小さな (30~80 nm) 神経分泌小胞の一種の特性。、

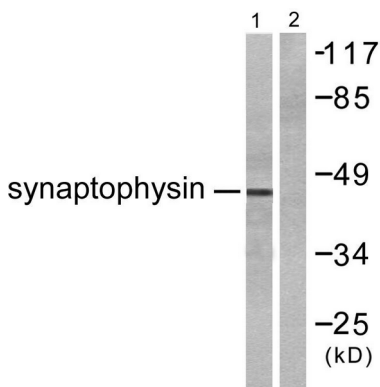
研究分野

神経科学

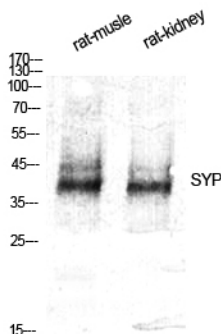
画像データ



シナプトフィジン抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



シナプトフィジン抗体を用いた LOVO 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



1: 500 に希釈した SYP ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析